我々は言うべき時と、言わない方がいい時を、承知しなければ
いけません。

「時がある」これは会主さまのとても大切なお指導でした。

よく私が皆さんにも「今は言いません。霊界からお許しをいた
だいてお話ししますね」というのは、そういうことでもあります。

また、時があるということ深く申し上げれば、縁があるとい
うことで、一瞬一瞬に意味がある、縁があるということです。

私たちはいい縁のときに話せばいいのですが、たいてい悪い縁
のときに話をしてしまいます。

縁のある日のことを「縁日」といいます。

どのようにして縁のある日にすればいいのかと申しますと、念
願をして、その日をいい縁の日に変えるのです。

期間は、まず基本は1週間です。「7」という意味深きこの日
数が大事です。

1週間念願して、もし結果が出なかったらまた1週間…と念願
をしていきます。

もし何かの都合で3日後にしなきゃいけないとなったら、霊界
にお詫びして「本当は念願を1週間させていただくべきことを、3
日後にしなきゃいけないので、どうぞ3日間しっかり念願させて

いただきます」と申し上げることで、その日を良い日、縁日になすことができます。

それはお導きにしても、引越しにしても、ほかにも結婚、結納、入学式、入社式、七五三にしてもそうです。

そして、妙智會の方位方角にも、「その日までの間念願しなさい、ちゃんとお経を上げるんですよ」女先生の思いがあります。

大切な日をよい縁の日「縁日」に変えることが肝要です。

また、我々はすぐ言いたくなってしまうがちですが、これは愚かなことで、必ず後で失敗します。

思ったことをすぐ言わないっていうことも忍善であって、忍善の修行の一つとして、時を待つということもあるのです。

妙智會の我々は、「時」を大事にする修行をぜひこれからしていただきたい。

そして、念願をするには、口に出して、そのものに対する思いを申し上げて、今年のお経のご順序であげることです。

業障が深いと、それだけ念願の期間も延びてしまいますが、妙智會は結果が出ますから、途中で念願諦めてはいけません。

ぜひ実行してください。皆さん、幸せになってくださいね。

今日は本当にありがとうございました。